

認知症カフェ視察報告

2019年3月

生駒市

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会 認知症対策部会

視察報告書

- 1 視察日時 平成31年1月9日（水）午後1時15分～3時
- 2 場 所 CAFEわか（あすか野介護予防拠点施設）
- 3 視察委員 吉村智恵委員
- 4 随行者 地域包括ケア推進課 後藤治彦

5 概 要

- ・あすか野介護予防拠点施設（2階建て1階部分）において、毎月第2水曜日開催。
- ・平成29年4月から開催し、OPEN 当時から固定スタッフ3人で運営。
- ・視察当日の参加者は、開催の周知に手違いがあったこと、当日寒かったことから11人（うち認知症の方5人）と少なかったが、普段は20人から30の方が参加して盛況。
- ・特にゲームなどのイベントは企画していないが、毎年12月だけ、ボランティアによるオカリナの演奏会を行っている。
- ・開催日は自治会回覧され、当事者の方たちだけでなく地域の方々も利用しており、地元住民の憩いの場、情報交換の場としても利用されている。
- ・カフェのメニューについては、コーヒー、紅茶（お菓子付）それぞれ200円（おかわり100円）で提供。

6 委員感想等

- ・視察当日は、来店2回目、3回目という方が多く、参加人数が11人と少なかったが、スタッフや包括職員が各テーブルを回り、話に加わることで、会話を盛り上げておられました。また、初対面の夫婦が偶然同席され、互いの昔話で盛り上がっていたのが印象的でした。また、若年性認知症の方が、家族3人で来られていた。
- ・スタッフから、来客用の駐車場がなく、徒歩での来店が基本となっていることから、近隣駐車場の利用や送迎があれば、もっと利用者の増につながるのではとの意見を聞いた。一方、「ここまで歩いてくるのが、トレーニングになる」と言っておられる方もあり、徒歩圏内での開催が望ましいと考える。

視察報告書

- 1 視察日時 平成 31 年 1 月 23 日（水）午後 1 時 30 分～3 時
- 2 視察場所 心サロン（東生駒病院多目的室）
- 3 視察委員 山上部会長・堀井委員
- 4 随行者 地域包括ケア推進課 澤辺誠

5 概要

- ・サロンは認知症地域支援推進員が中心となって運営
- ・スタッフは推進員のほか、東生駒地域包括支援センター職員 3 名、認知症支援隊のかた 3 名で運営。
- ・この日の参加者は 20 名程度であった。
- ・いつもは 25 名程度の参加があるが、ノロウイルスなどにより欠席が多いとのこと。
- ・認知症の方が 4 名、ご夫婦が 3 組おられる。要介護の認定のある方もおられる。
- ・認知症のかたもおられるため、前日に連絡したり、当日に連絡したり、人によっては迎えにいたり工夫して参加いただいている。
- ・同じ会場にて「いきいき百歳体操」も開催しているが、参加されている人は全然違う。
- ・12 月 15 日号広報に介護予防の特集があり、それを見て申し込まれた方もおられる。
- ・参加費は 300 円。
この中にコーヒー代、クラフト代、その他（この日は白玉ぜんざいが全員にあった）が入っている。
- ・この日の内容は
 1. 絵馬作り（絵馬にお願い事をみんなで書いた。発表していい、というかたは発表し、参加者から拍手や笑いがおきていた）
 2. 支援隊友国さんによるうた（体操とウクレレ？の演奏）
 3. ぜんざい（お餅は危ないので白玉。栗が入っていた）
 4. 折り紙（参加者の方で折り紙の得意な方がおられたのでその方を先生に）

6 委員感想等

絵馬の発表や折り紙（相当に複雑な内容であった）の際に、スタッフが間に入ったり、発表の機会を作ったり、声をかけたりといった工夫のおかげで、参加者からは自然と笑みがこぼれ、20 名という人数であっても、全体があたたかく、楽しい時間と空間が出来上がっていた。

複雑な折り紙も、支援隊の方のフォローのおかげで、皆でわいわい言いながら、取り組んでいる様子が印象的であった。

視察報告書

- 1 視察日時 平成31年2月5日（火）午後1時30分～2時30分
- 2 視察場所 鹿ノ台校区バンビカフェ（鹿ノ台いきいきホール2階）
- 3 視察委員 茨木委員
- 4 随行者 地域包括ケア推進課 後藤治彦

5 概要

- ・平成29年3月にオープンし、毎月第1火曜日午後1時半～3時半まで開催。
- ・運営については、地域住民（ボランティア）が行っている。
- ・カフェのメニューについては、コーヒー（お菓子付）100円、ミネラルウォーター50円
- ・スタッフは、5人で、その他、フォレスト地域包括支援センター職員1名が常時参加。
- ・参加者は、通常15名ほど参加されているが、この日は、参加者は9名で、当事者の方はうち7名であった。（参加者9名、スタッフ5名、地域住民2名、図書館職員1名、包括職員1名、視察3名、計21名）
- ・当事者の方には、認知症支え隊からの電話で来られる方1名、その他は、スタッフ、地域包括支援センター職員が電話をかけるなどして参加につなげている。
- ・参加者については、現時点では、回覧等を行っていないため、地域包括支援センターにおいて相談があった方などの中から紹介、案内している。
- ・図書館の協力により、会話の弾まない男性向けの本を陳列する工夫がされていた。
- ・視察当日は、参加者の声を反映して、線引きゲームや紙芝居が行われ、盛り上がっていた。
- ・終了後は、地域包括支援センター、スタッフでのミーティングを行い、欠席者の状況把握などを行っている。
- ・ホール一階には、常設の喫茶コーナーがあり、市民の方が利用できるようになっているが、現時点では、その場所を利用しないで2階を使用してカフェを開いているが、地域住民の方の認知症への理解が深まっていけば、それと統合できればと考えておられた。

6 委員感想等

- ・通常は、コーヒーを飲みながらおしゃべりで楽しまれているが、本日は、おしゃべりに加え、参加者からの声を反映し、線引きゲームや紙芝居が行われ、スタッフが盛り上げ、笑顔いっぱいの日であった。私自身も、このような住民主体の活動を見るのは初めてで、地域の力を感じることができ、有意義な視察となった。

視察報告書

- 1 視察日時 平成 31 年 2 月 7 日（木）午後 1 時 30 分～2 時 30 分
- 2 場 所 ちょボラカフェあずさ（総合支援センターあずさ内）
- 3 視察委員 徐委員 湯川委員
- 4 随行者 地域包括ケア推進課 田中明美

5 概 要

- ・総合支援センターあずさ内で、第 1 木曜日、午後 1 時半～3 時半に開催。
- ・平成 27 年 3 月から開催し、認知症地域推進員と包括職員とボランティアで運営。
- ・視察当日は、認知症地域支援推進員 1 名、包括職員 2 名、ボランティア 6 名で合計 9 名のスタッフで運営。参加者は当事者 3 名、その家族 3 名と地域住民が 19 名の合計 25 名参加。
- ・地元住民の憩いの場、情報交換の場、認知症の普及啓発の場、認知症当事者・家族支援の場として利用されている。
- ・カフェのメニューについては、コーヒー、お茶（お菓子付）を 100 円で提供。
- ・介護者の方の認知症ケアの発表などもあり、継続介護の知恵も引き継がれる場としても工夫がある。
- ・当日は、ピアノ演奏、歌の先生の指導による合唱、フラダンス鑑賞、歓談等のプログラム
- ・ロコミでの広がりにより、参加者が徐々に増え定着。

6 委員感想等

- ・家族の方が実際の認知症ケアについて研究されていることを発表できる時間があり、しかも演台も用意され、マイクもあるなど、本格的な発表の機会があることに驚きました。介護することの大変さもありますが、その経験を他者へつないでいける場があるという場の設営に感激しました。
- ・ボランティアの皆様が、主体的に活動されている姿に圧巻でした。アットホームな雰囲気もあり、とても和やかな時間が素敵だと思いました。
- ・認知症カフェというと病院や施設で行われているシステム化されたもののイメージが強くありましたが、配慮もなされてはいるが、それは目立たず、普通のサロンのような印象で、誰もが集いやすく、自然な認知症啓発がなされていてとても良いと思いました。
- ・このような場が少しずつ地域の中に広まっていくといいなと思いましたし、知らない人はまだまだいると思うので、普及啓発をもっと市民の方の目に触れるところにしたらいと思いました。